



# 日本海

日々の様子は学校  
ホームページから！

「藤塚小ブログ」は更新中！



## 「変化した方がよいこと」と「変化してはいけないこと」

校長 山田 耕世

数年前から、タブレット端末が一人一台配られました。これからの世の中を生きる子どもたちにとって、タブレット端末などの端末は、鉛筆やノートと並ぶ「マストアイテム」になるからです。社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっています。社会をたくましく生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を広げる場所である学校が、時代や世界に取り残されてはいけないということで、ICT環境の整備が急速に図られてきました。まさに学校現場が大きく「変化した」瞬間です。

一方で、どのような世の中になっても「変化してはいけないこと」もあると考えます。例えば、「困っている人を助けたり、失敗した人を励ましたりする気持ち」「困難なことにもあきらめず乗り越えようとする気持ち」などです。

先日、藤塚小学校では、最後の「全校縄跳び記録会」が開催されました。子どもたちは「なかよし班」（異学年）ごとに長縄跳びを行ったり、自分が選んだ種目の短縄跳びに挑戦したりしました。

縄跳びに対して得意な子どももいれば、苦手な子どももいます。長縄跳びをしている際にうまく跳べない子どもも当然います。その際、「ドンマイ！ドンマイ！」「〇〇さん、大丈夫だよ！」などといった温かい声を掛ける子どももいました。また、短縄跳びをしている際、失敗しても何度も立ち上がり、足がふらふらになるまで、自分が選んだ種目に挑戦し続ける子どももいました。これらの子どもたちの姿は、どのような世の中になっても「変化してはいけない」素晴らしい姿であると考えます。

また、藤塚小学校のある教室の授業風景ですが、分からない問題があった際に、「よく分からない！誰か、教えて！」などと訴える子どもの姿を見ることがあります。すると席の近くの子どもの側に行ったり、「分からない！」と訴えている子どもが自分で席の近くの子どもの側に近付いたりして学び合おうとしています。分かったふりをせずに、分からないことを素直に伝え、友だちに聴きに行こうとする姿。そして、友だちが困っているとその子どもが納得できるまで考えを説明しようとする姿。これらの姿も、どのような世の中になっても「変化してはいけない」素晴らしい姿です。

「変化した方がよいこと」と「変化してはいけないこと」を意識しながら、子どもたち一人一人の関わりを職員一同、今後も大切にしていきたいと考えております。

「閉校する学校に感謝の気持ちを伝える活動」を生活委員会の子どもの企画で行いました。道路から見るのでぜひご覧ください！

